（資料２）

高等養護学校分教室評価総括表

奈良県立高等養護学校

<table>
<tr><th colspan="2">評価項目</th><th>具体的方策・評価指針等</th><th>成果と課題（評価の分析）</th><th>課題の改善策等</th></tr>
<tr><td colspan="2">インクルーシブ教育の推進</td><td>各分教室の充実に向けて、学習内容や環境整備等の充実を図るため検討・協議を行う。</td><td>各分教室での教育環境整備は高校とも協議を重ね、徐々に改善されている。しかし、物理的に難しい部分については、高校とも連携して県教育委員会へも協力を求める必要がある。
交流及び共同学習については、各分教室ともにそれぞれの特徴を生かした交流ができつつある。ただし、行事等の精選は必要と思われる。また、本校２年生、３年生についても高田高校、分教室設置校との交流についても引き続き実施し、充実に努める。</td><td>互いの教育課程を尊重しながら、双方にメリットのある内容で継続的にインクルーシブ授業を計画していく。</td></tr>
<tr><td rowspan="5">交流及び共同学習</td><td rowspan="5">交流及び共同学習の推進</td><td>【授業】
交流及び共同学習を実施している。
（楽しい、意識や態度に変化があった）</td><td>概ね成果はあったと考える。各分教室(高等学校の教育課程)によってインクルーシブ授業のもち方に課題がある。
<table><tr><th></th><th>生徒</th><th>保護者</th><th>教員(高養)</th><th>教員(高校)</th></tr><tr><td>ケート アン</td><td>67%</td><td>28%</td><td>64%</td><td>62%</td></tr></table></td><td>互いの教育課程を尊重しながら、双方にメリットのある内容で継続的にインクルーシブ授業を計画していく。</td></tr>
<tr><td>【行事】
交流及び共同学習を実施している。
（楽しい、意識や態度に変化があった）</td><td>概ね成果はあったと考える。互いのことをよく知る、一緒に活動する機会となり、自然に支えあい、認め合う力が育ってきているように思われる。但し、高養生にとって行事が多くなり負担も大きいので整理が必要である。
<table><tr><th></th><th>生徒</th><th>保護者</th><th>教員(高養)</th><th>教員(高校)</th></tr><tr><td>ケート アン</td><td>83%</td><td>46%</td><td>66%</td><td>53%</td></tr></table></td><td>年間を通して本校、高等学校行事への分教室生徒の参加方法について整理、検討が必要。</td></tr>
<tr><td>【部活動】
交流及び共同学習を実施している。
（楽しい、意識や態度に変化があった）</td><td>成果がある反面、課題も多いと考える。
分教室での入部できる部活に制限がある。高校生と一緒に活動する時間が少ない。１年次からの継続が難しい場合がある。高校生と一緒に活動することで活発に活動できる。
<table><tr><th></th><th>生徒</th><th>保護者</th><th>教員(高養)</th><th>教員(高校)</th></tr><tr><td>ケート アン</td><td>85%</td><td>41%</td><td>49%</td><td>44%</td></tr></table></td><td>互いの生徒に対して指導にあたることのできる体制が必要。</td></tr>
<tr><td>【日常生活】
交流及び共同学習を実施している。
（楽しい、意識や態度に変化があった）</td><td>互いにとって成果はあると思われる。しかし、生徒会であったり、部活動であったりと一部の高校生との関わりになることが多い。
<table><tr><th></th><th>生徒</th><th>保護者</th><th>教員(高養)</th><th>教員(高校)</th></tr><tr><td>ケート アン</td><td>77%</td><td>34%</td><td>39%</td><td>30%</td></tr></table></td><td>二階堂分教室では、年に１回ではあるが全体の交流会が行われている。
これ以外にも学年、クラス単位の交流を増やすことも必要。</td></tr>
<tr><td>【生徒】
分教室に通って①良かったと思うこと、できるようになったこと
②困ったと思うこと、嫌だと思ったこと</td><td>良かった、できるようになったと感じている生徒が多いことからすると、インクルーシブが推進されていると評価できると考える。
<table><tr><th></th><th>①</th><th>②</th></tr><tr><td>ケート アン</td><td>72%</td><td>32%</td></tr></table></td><td></td></tr>
</table>

<table>
<tr><th colspan="2">評価項目</th><th>具体的方策・評価指針等</th><th>成果と課題（評価の分析）</th><th>課題の改善策等</th></tr>
<tr><td></td><td></td><td>【教員】
これまでの交流及び共同学習を通して、両校生徒の意識や態度に変化があった。</td><td>分教室生徒が上記のように感じている反面、約半分弱の教員が変化を感じていない。両校生徒にとっての取組について課題も多いと考える。
<table><tr><td rowspan="2">ケート アン</td><td>教員(高養)</td><td>教員(高校)</td></tr><tr><td>52%</td><td>54%</td></tr></table></td><td>二階堂分教室では、年に１回ではあるが全体の交流会が行われている。
これ以外にも学年、クラス単位の交流を増やすことも必要。</td></tr>
<tr><td></td><td>共生社会の形成</td><td>共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築の観点から、分教室の取組は効果がある。</td><td>同上
<table><tr><td rowspan="2">ケート アン</td><td>教員(高養)</td><td>教員(高校)</td><td>教員(中学校)</td></tr><tr><td>60%</td><td>62%</td><td>88%</td></tr></table></td><td>同上</td></tr>
<tr><td>情報提供</td><td>中学校への情報提供</td><td>進路に関する情報提供について丁寧に説明を行っている。</td><td>学校見学会、募集要項説明会で、高等養護学校の概要についての伝達はある程度できていると思われるが、専門コースについての説明の充実を図る必要がある。
<table><tr><td rowspan="2">ケート アン</td><td>教員(中学校)</td></tr><tr><td>81%</td></tr></table></td><td>中学校ブロック毎に訪問しての説明会の実施。
今の学校見学会に加え、分教室ブースを設けたオープンスクールの実施等。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">コース選択</td><td>コース選択のための情報提供
(入学前)</td><td>分教室(コース選択)のことについて丁寧に説明を行っている。</td><td>学校説明会、募集要項説明会などで直接説明を行っているが、理解している方が６割程度にとどまっていることから、情報提供の方法について検討が必要である。
<table><tr><td rowspan="2">ケート アン</td><td>生徒</td><td>保護者</td><td>教員(中学校)</td></tr><tr><td>51%</td><td>60%</td><td>64%</td></tr></table></td><td>同上</td></tr>
<tr><td>コース選択のための情報提供
(入学後)</td><td>コースを選択をするための分教室見学がもっとあった方が良い。</td><td>生徒、保護者の分教室見学を実施する機会を各１回設けている。日程及び費用的にこれ以上増やすことは厳しい。
<table><tr><td rowspan="2">ケート アン</td><td>生徒</td><td>保護者</td></tr><tr><td>27%</td><td>21%</td></tr></table></td><td>学校見学会の他に情報提供する方法を検討する。</td></tr>
<tr><td>コース選択の時期</td><td>１年学年末のコース選択は適切である。</td><td>生徒、保護者については約６割、中学校については約８割が入学後のコース選択がよいと回答しているが、出願時の方がよいとの回答にも注目する必要がある。
<table><tr><td rowspan="2">ケート アン</td><td>生徒</td><td>保護者</td><td>教員(高養)</td><td>教員(高校)</td><td>教員(中学校)</td></tr><tr><td>58%</td><td>64%</td><td>10%</td><td>58%
2年生～</td><td>84%</td></tr></table></td><td>〇コース別の入学選抜の実施。
〇希望コースへの全入。但し、教員配置の検討必要。
〇本校をセーフティネットとして設定。</td></tr>
<tr><td>コース選択の方法</td><td>コース選択の方法(適性検査の実施を含む)は適切である。</td><td>上記を選択した理由からコース選択の方法に課題があると考えられる。
入学してから見学や授業体験をしてから考えるというのに対し、希望していないコースに行かなければならないケースが出てくることへの不安や負担が大きいことがあげられている。希望するコースに全員が選択できることは望ましいことであるが、偏りが出た場合に分教室運営が難しくなる。</td><td>〇入学後、見学や体験をしてから選択することも大切であるが、希望どおりにならなかった場合の負担が大きい。このことからコース別選抜が考えられる。
〇希望するコースへ全入とする。その場合、コース毎の教員配置ができればと考える。難しい場合は、本校のみをセーフティネットと捉え、本校の教員配置を＋α考えていただければと考える。但し、極端に生徒数が少ない分教室が出た場合は運営が厳しくなってしまう。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th colspan="2">評価項目</th><th>具体的方策・評価指針等</th><th>成果と課題（評価の分析）</th><th>課題の改善策等</th></tr>
<tr><td></td><td>通学方法・時間等</td><td>分教室への通学方法、時間は適切である。</td><td>全県一区であるため、また、分教室の場所が広域であるため、通学時間が長くなる生徒や困難になるケースがある。また、山辺分教室の場合、天理方面からのバスについては決まった時間を乗り過ごすと３時間後にしか次のバスがない状況がある。</td><td></td></tr>
<tr><td>募集人員</td><td>募集人員</td><td>募集人員数について
（減らした方が良い）</td><td>原因は複数あると考えられるが、定員割れをしている現状から募集人員を減らし、適正数を検討する必要があると思われる。
<table><tr><td rowspan="2">ケート
アン</td><td>教員(高養)</td></tr><tr><td>66%</td></tr></table></td><td>ニーズの把握を行い、分析を行う必要がある。</td></tr>
<tr><td rowspan="5">学習指導</td><td>専門教科の授業</td><td>分教室での取組は、高等養護学校の職業教育の充実につながりましたか。</td><td>取組そのものが充実にすぐにつながったとは言えないが、意欲や積極性が増した部分はあると思われる。
<table><tr><td rowspan="2">ケート
アン</td><td>教員(高養)</td></tr><tr><td>54%</td></tr></table></td><td></td></tr>
<tr><td>専門教科の授業</td><td>専門教科の授業が充実している。</td><td>基本的な内容についてはほぼ適切に配置されていると思われるが、分教室、本校の教育環境から見直しが必要なコース(教育課程)があると考える。
<table><tr><td rowspan="2">ケート
アン</td><td>生徒</td><td>保護者</td></tr><tr><td>84%</td><td>89%</td></tr></table></td><td>高校、本校の教育環境を考慮して検討する必要がある。
また、「環境サービス」「流通・サービス」のように内容が似通ったコースの内容の再編も必要と考える</td></tr>
<tr><td>専門教科の授業</td><td>設置している専門コースについて
（コースの種類)検討が必要である。</td><td>基本的な内容についてはほぼ適切に配置されていると思われるが、分教室、本校の教育環境から見直しが必要なコース(教育課程)があると考える。
<table><tr><td rowspan="2">ケート
アン</td><td>教員(高養)</td><td>教員(高校)</td></tr><tr><td>68%</td><td>23%</td></tr></table></td><td>同上</td></tr>
<tr><td>専門教科の授業</td><td>今あるコースの他に、あったらよいと思うコースがある。</td><td>基本的な内容についてはほぼ適切に配置されていると思われるが、分教室、本校の教育環境から見直しが必要なコース(教育課程)があると考える。
<table><tr><td rowspan="2">ケート
アン</td><td>生徒</td><td>保護者</td></tr><tr><td>11%</td><td>13%</td></tr></table></td><td>同上</td></tr>
<tr><td>専門教科の授業</td><td>設置している専門コースについて
（コース数を減らした方が良い）</td><td>利用できる教室に制限があることが多く十分な活動ができないこともあり、見直しが必要なコース（教育課程）があると考える。例：高円分教室の「ものづくり」、二階堂分教室の「流通サービス」等
<table><tr><td rowspan="2">ケート
アン</td><td>教員(高養)</td></tr><tr><td>45%</td></tr></table></td><td>同上</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th colspan="2">評価項目</th><th>具体的方策・評価指針等</th><th>成果と課題（評価の分析）</th><th>課題の改善策等</th></tr>
<tr><td>進路指導</td><td>進路指導</td><td>卒業後の進路について丁寧に指導を行っている。</td><td>本校(１年生、本校及び山辺２・３年生)と二階堂分教室(二階堂及び高円２・３年生)に拠点を置いてきめ細かに指導にあたる。
個別体験実習を１年生は１回以上、２年生は２回以上取り組む。
また、授業(１年生はトータルワーク、２・３年生はキャリアガイダンス)との連携を行う。
<table><tr><td rowspan="2">ケートアン</td><td>保護者</td></tr><tr><td>89%</td></tr></table></td><td>１年生の夏期休業中から２年生が終了するまでに、個別体験実習を一人３カ所以上取り組むことや、授業(１年生はトータルワーク、２・３年生はキャリアガイダンス)との連携を行い、勤労観・職業観を向上させる。</td></tr>
<tr><td>生徒指導</td><td>生徒指導</td><td>各分教室において、定期的に研修や連絡会を開催し、実態の把握と改善への検討、協議を行う。</td><td>職員会議や朝礼で、『生徒心得』について教員間での共通理解を図ることはできたが、会議等の過密から研修会の定例化を図ることができなかった。
今後、分教室での生徒指導の実態把握や問題解決のため、研修会や連絡会議の定期的な実施が必要である。
本校の１～３年の生徒バランス、生徒会運営について検討が必要である。</td><td>分教室の年間計画において、生徒指導に関する研修会や連絡会議を設定する。</td></tr>
<tr><td>連携体制</td><td>高等学校職員との連携</td><td>高等学校の教職員と連携している。</td><td>分教室生徒の実態については、年度当初に高等学校教員へ伝える場は持っている。
<table><tr><td rowspan="2">ケートアン</td><td>教員(高養)</td><td>教員(高校)</td></tr><tr><td>61%</td><td>67%</td></tr></table></td><td>必要に応じて研修を実施する。</td></tr>
<tr><td>環境整備</td><td>教員</td><td>分教室における施設・設備等を含めた教育環境は整っている。</td><td>利用できる教室に制限があることが多く、十分な活動ができていないことが多い。また、時間割編成についても高校の時間割編成の後に組まなければいけない事情も大きい。
<table><tr><td rowspan="2">ケートアン</td><td>教員(高養)</td><td>教員(高校)</td></tr><tr><td>20%</td><td>33%</td></tr></table></td><td>教育環境整備への予算措置、現場だけでは調整できない面についての県教委の協力が必要。</td></tr>
<tr><td>センター的機能</td><td>センター的機能</td><td>高等学校の教職員と合同の研修等を実施している。</td><td>高校生については入学時に分教室教員から講義を行っているが、教員へは分教室が設置された際に研修を実施してからは行っていない。</td><td>必要に応じて研修を実施する。</td></tr>
</table>